

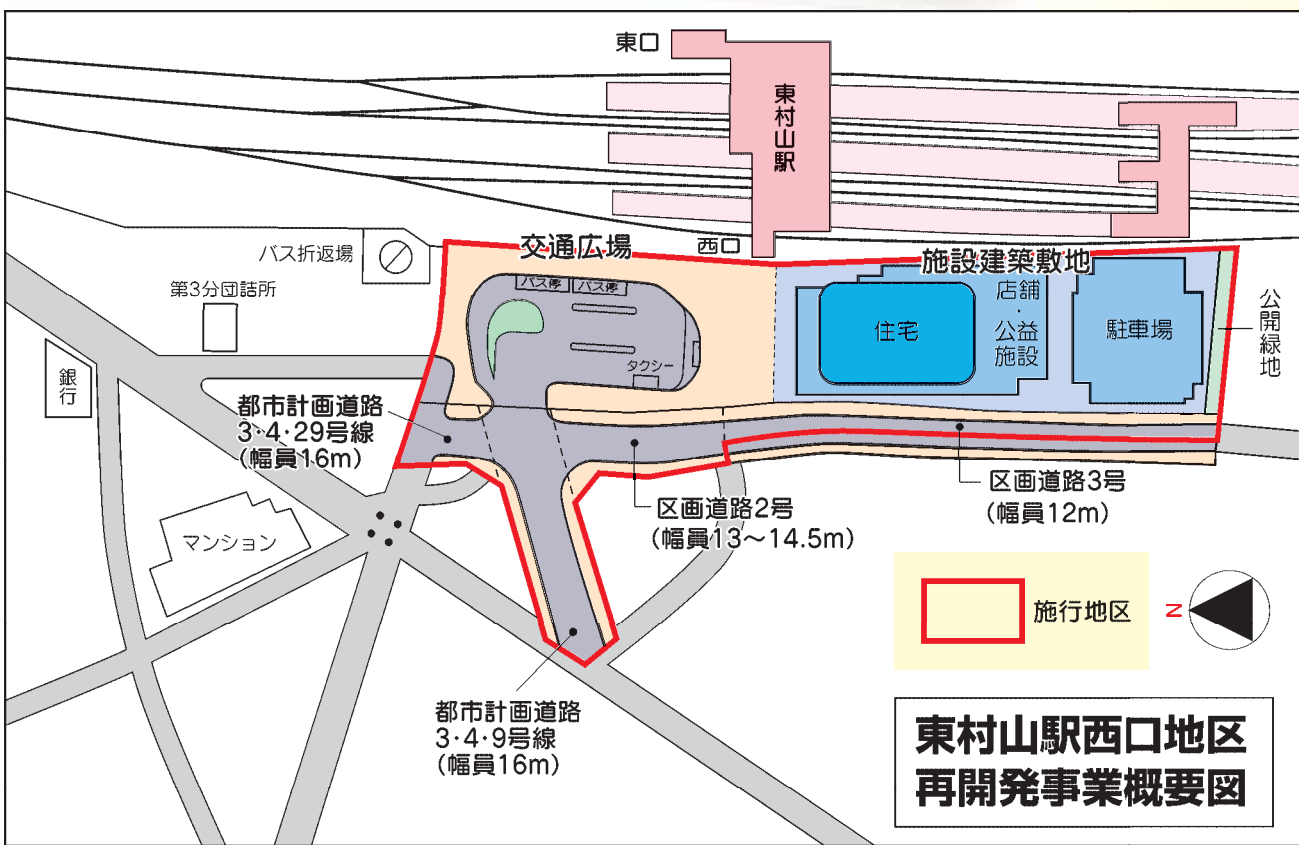
今号の主な内容
行財政改革の取り組み・選挙 ……2面
市民表彰・統計・川まつり・みどり ……3面
多摩六都・国民年金・健康 ……4面
文化のつどい・公民館・スポーツセンター…5面
市民総合相談・カメラニュース ……6面



東村山駅西口地区の再開発事業が始動

パートナーシップで東村山駅西口の明日を拓く

完成予想図



東村山駅西口地区の再開発事業は、平成13年11月に結成された地元権利者の皆さんによる準備組合の活動が実を結び、16年4月7日に都から「東村山駅西口地区市街地再開発組合」の設立認可を受けて「東村山駅西口地区第一種市街地再開発事業」が本格的に始動しました。

この再開発事業は、東村山駅・久米川駅・秋津駅を三極とする中心核整備の一環として市の街づくりの中心となる事業です。将来、東村山駅東口・秋津駅の間を結ぶ都市計画道路3・4・27号線整備事業と合せ、活力ある街づくり、住宅都市としての魅力ある街づくりを目指すものです。

今後は、都から権利変換計画認可を受け、19年度の事業完成を目指して進むことになりました。

事業の位置づけ

東村山駅は、西武新宿線、国分寺線、西武園線の3線が交わる市の広域的な中心核に位置づけられています。その西口地区において、都市機能の充実を図り、狭山丘陵の豊かな自然・歴史・文化の共存するまちの玄関口としてふさわしい整備を地域住民と行政とのパートナーシップで行われます。

事業の必要性

現在の東村山駅西口周辺は、宅地化が進み東村山駅を利用する人が増える一方、道路整備が不十分のため、交通安全の確保などの問題が発生しています。また、周辺地域の建物の老朽化が進み、地震等の災害時に危険な状態となっています。

そのため、市では平成3年度から継続して、東村山駅西口周辺のまちづくり調査を実施し、地元の皆さんで組織した「東村山駅周辺まちづくり研究会」とともに検討を重ねてきました。

この結果、市街地再開発事業を施行し駅前広場の整備を行うことで、歩行者と車の安全かつ円滑な交通、及び防火性の高い店舗や住宅などの建築物を集積し、周辺を含めた商業活性化を図ることとなりました。

施設建築物の概要

多くの人が集まるまちの玄関口となる駅前に高さ約97m、地下1階・地上27階建て高層ビルを建築し、各種機能の充実を図る次の施設を構成します。

店舗 交通利便性が高い立地を生かしながら、時代の要請や消費者ニーズに適合する魅力的な商業施設を整備します。

公益施設 周辺住民の方々や鉄道利用者など、多くの方が利用できる行政サービス機能、文化・交流機能を備えます。

これらの公共施設整備に必要な費用は、国と都の補助を受けて推進していきます。

今後のスケジュール

平成16年 権利変換計画認可
工事着工
平成19年 工事竣工
平成20年 組合解散

★公益施設等の詳細は、今後の市報でお知らせします。

公共施設の概要

交通広場とそれに接続する都市計画道路や区画道路の一端

事業計画の概要

事業の名称
東村山駅西口地区第一種市街地再開発事業

施行地区面積
約1.04ヘクタール

公共施設整備
都市計画道路3・4・9号東村山駅武蔵大和駅線(幅員16m、野口町1丁目地内に交通広場約3千400mを整備)

都市計画道路3・4・29号東村山駅北線(幅員16

住宅建設の概要

区画道路2号(幅員13~14.5m)

区画道路3号(全幅員12m、施行地区内幅員7m)

建築物の整備
延べ面積 約2万8千510㎡
主要用途 住宅、店舗、公益施設、駐車場
高さ 約97.1m
階数 地下1階、地上27階

建築敷地の整備
建築敷地面積 約4千280㎡
整備計画 北側交通広場沿い及び西側区画道路沿いに、高度利用地区の壁面の制限

住宅建設目標
戸数 181戸
面積 約1万8千400㎡(住宅部分の面積)

資金計画
総事業費 約104億円

その他
環境対策 日影、電波障害、風害、景観、緑化に配慮

再開発担当

備えた施設を整備します。住宅 駅前という立地条件を生かし、商業施設や公益施設と複合した生活利便性の高い都心型共同住宅を整備します。

駐車場等 施設利用者の利便性及び交通機能の向上を図るため、必要規模の駐車場、駐輪場を整備します。

店舗・住宅等は、従前権利者がその資産に見合った部分を取得(権利変換)し、残りの部分の分譲による収入金で事業費を賄います。

問い合わせ 再開発担当